JISS 社団法人スウェーデン社会研究所
Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies
JISS所報－No.329－2004.12.31

所報
The Japan Institute of Scandinavian Studies

Index

・目次
・福祉と経済を両立させるスウェーデン社会
・スウェーデン保育の動向
・30回、31回、32回スウェーデン研究連続講座
・スウェーデン人の見た日本、日本人の見たスウェーデン
・北欧留学記
・JISSからのお知らせ

■ 目次

・福祉と経済を両立させるスウェーデン社会
・スウェーデン保育の動向
・30回、31回、32回スウェーデン研究連続講座
〔30回〕
ものつくりの基盤を支える金型用鋼、工具鋼メーカー　ウッデホルムの全容
〔31回〕
言語からみた北欧文化とスウェーデン文化の特徴
〔32回〕
ボルボと価値ある生活
・スウェーデン人の見た日本、日本人の見たスウェーデン
・スウェーデン人が日本で暮らすのは難しい？
・スウェーデン企業に10年勤めて
・北欧留学記
・アイ・ラヴ・スウェーデン
・JISS所報原稿募集

スウェーデン社会研究所　所報
No.329
2004年12月31日発刊

発行所：社団法人スウェーデン社会研究所
〒105-0013　東京都港区浜松町1-8-1
㈱科学新聞社内5階

連絡事務所
〒124-0024　東京都葛飾区新小岩2-19-7
Tel. 03-5661-6035 Fax. 03-3655-1596
e-mail sweden@tkm.att.ne.jp
URL: http://home.att.ne.jp/apple/jiss/jiss.htm

発行人・編集責任者：波多野裕
Publisher&Editor in Chief : Yutaka Hatano
編集者：久保田健司
Editor : Kubota Takeshi

JISS 社団法人スウェーデン社会研究所
Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies

JISS所報－No.329－2004.12.31

目次へ戻る

福祉と経済を両立させるスウェーデン社会

福祉と経済を両立させるスウェーデン社会

北海道東海大学
教授
川崎　一彦

スウェーデンをはじめとする、福祉先進国である北欧諸国の経済と産業の元気なパフォーマンスが、引き続き世界的に注目されている。
スウェーデンはどのようにして福祉と経済を両立させているのだろうか？
スウェーデン人の価値観とどのように関連しているのか？
21世紀の日本人の生き方にどのようなヒントを与えてくれるのか？

1　元気なスウェーデンの経済と産業

90年代後半からの、スウェーデンをはじめとする、北欧諸国の経済産業の元気なパフォーマンスが、近年世界的に注目されている。

スウェーデンでも90年代前半にはバブル経済が崩壊し、景気低迷と深刻な財政赤字を経験した。しかし、近年は景気回復と財政再建の「二兎を得た」モデルとしても、アングロサクソン型の市場原理至上主義に代わる政策モデルとしても注目されている。世界経済フォーラム(WEF, www.weforum.org)や国際経営開発研究所(IMD)の世界各国の経済競争力ランクによれば、近年日本が低迷しているのに対し、スウェーデンやフィンランドなど北欧諸国が世界のトップレベルにランクされている。

米国IDC社はコンピュータインフラ、情報インフラ、インターネットインフラおよび社会インフラの要因による情報化度の世界ランキングを発表しているが、近年毎年スウェーデンがトップクラスである。(www.idc.com)英国政府が実施している産業界における情報通信技術の利用浸透度の国際調査でも、スウェーデンがトップにランクされている。(http://www.dti.gov.uk/)

スウェーデンの産業の元気さの秘密は、かつての工業、ものづくりから、知識産業、「知業」への産業構造の歴史的転換に成功したからであろう。知業とは、ソフト、著作権、情報、デザイン、ブランド、特許、サービス、「体験」などの知的財産が主に付加価値を生み出す産業構造である。

2　福祉と経済は相互補完の関係

21世紀の日本の社会にとって、経済の活力も福祉も両方を維持することを目標にすべきである、という点ではコンセンサスがある。しかし、1970年代には「福祉亡国」という表現があったように、依然として、福祉と経済は二者択一との考え方も強い。

環境と経済についても同じことが言える。だが、スウェーデンの現状をみると、福祉と経済の両立は可能であり、21世紀の知業社会では、むしろ相互補完関係にある構図が見えてくる。

21世紀の知業社会では、変化のスピードが速く、その上、変化の質も非連続、予測不可なため、創造性を重視し、一生学び続ける必要がある。知業経済において国際競争力を維持し強化する唯一の方法は、国民が一生学び続け、知識水準を引き上げることである。大学まで授業料は無料、国の奨学金や奨学ローン制度、学習目的の休業が可能な制度、リカレント教育システムなどにより、スウェーデン国民は、「誰でも、いつでも、必要なこと」を学ぶことが出来る。と同時に、学び続けることは、それ自体が楽しく、喜びであり、自己実現の手法である。つまり、国民は幸せであり、同時に経済の国際競争力も強化出来る、という構図である。知業社会では、福祉と経済の両立が可能であり、相互に補完関係にあることをスウェーデンの動向は示唆している。

12月初旬に公表されたOECDによる15歳児の学習到達度の国際比較調査でも、北欧、就中フィンランドが好成績な一方、日本のランクの低下が注目され、懸念されている。
(http://www.pisa.oecd.org/)英国Economist誌の“The World in 2005”による、「生活の質」のランキングでは、ノルウェーが3位、スウェーデンが5位、アイスランドが7位、デンマークが9位、フィンランドが12位、日本が17位で、北欧諸国民の生活満足度が高いことが伺われる。
(http://www.economist.com)

3　二一世紀知業社会の価値観と生き方

堺屋太一氏は文明と共同体のネットワークシステムの変化を、血縁(狩猟)　→　地縁(農業)→職縁(工業)→「好縁」(知業)と表現している。神野直彦氏は、工業社会では死んだ自然を原料と

7.

する　→　知識社会では人間そのものが生産の決定要因となる、と説く。

岐阜で人材育成を目的とするNPO法人G-Net(www.gifist.net)を経営する25歳の社会起業家、秋元祥治氏は、現代は、「おもろいことをおもろい人と」出来る時代だ、と断言する。私は、かつての工業社会では、「夢や趣味と仕事は別、趣味で生活は出来ない」と言われたが、知業社会は、「夢があれば幸せになれる社会」だと学生に話している。

長渕剛のヒット曲『しあわせになろうよ』は、「出会った頃の二人に　も一度戻ってみよう　そして二人で手をつなぎ　しあわせになろうよ」という歌詞で始まる。私は、「夢を見つけ、夢に出会い、夢を追っていた頃の自分に戻れば、知業時代にはしあわせになれる！」、と『しあわせになろうよ』の新解釈を示して学生を励ましている。

日本では戦後一貫して米国をモデルとし、米国型の価値観やライフスタイルを追ってきた。

ホーフステーデ(オランダの民族学者)は、かつて、世界で最も「男性的な社会」(金、もの、権力などが社会の支配的な価値である社会)が日本や米国であり、最も「女性的な社会」(共生、共存、生活の質などが支配的な価値である社会)が北欧諸国だと分析した。

しかし、21世紀の日本人も「男性的な社会」を目指しているかは、はなはだ疑問だ。たとえばコンピュータのOS(基本ソフト)でも、ウインドウズで世界一富裕になったビル・ゲイツと、『それがぼくには楽しかったから』だけでリナックスをオープンにしたリーナス・トーバルズの生き方の違いは明確で、私は多くの若い日本人がリーナス・トーバルズの北欧型の生き方に共鳴している、と実感している。ミリオンセラーを記録した『13歳のハローワーク』の読者の多くは本当にやりたいことを模索する大人だという。

私は初等中等教育における起業家精神教育の実践研究を行っている。大学付属の中学校で、ものづくりの企画、制作、販売を実践してもらった時、担任の先生に「利益の使い方は自分たちで決めてよい」といわれた生徒たちは、何と利益を北海道盲導犬協会に寄付することを決めたのだ。秋元祥治氏は「幸せの最小単位は二人」だという。21世紀の日本の若者の価値観は確実に変化している。スウェーデン型社会の価値観・ライフスタイルは、21世紀の日本人の生き方も示唆している。

参考文献

川崎一彦「国際競争力の背景としての北欧の経営スタイル」ジェトロセンサー、2002年6月号
川崎一彦「貧しい農業国から豊かな福祉知業国家への軌跡」『スウェーデンハンドブック第2版』2004
村上龍『１３歳のハローワーク』2003
リーナス・トーバルズ『それがぼくには楽しかったから』2001

目次へ戻る　　このページのTOPへ戻る

JISS 社団法人スウェーデン社会研究所
Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies

JISS所報－No.329－2004.12.31

目次へ戻る

スウェーデンの保育の動向

スウェーデンの保育の動向

日本女子体育大学
教授
水野　恵子

Ⅰ、日本における保育制度の問題点—幼保二元体制

日本においては、就学前の幼児教育・保育に対して保育園と幼稚園というふたつの制度がある。最近、日本では保育園の不足のため入園を希望しても保育園に入れない子どもが増える一方、幼稚園では園児減という深刻な問題に直面している。

同じ子どものための施設でありながら何故こうした問題が生じるのか？理由としては、入園のための用件や条件の違い、ワーキングウーマンの増加、少子化などがあるといわれているが、実際にはその背景には、幼児教育・保育に対する国の基本的な考え方、運営の仕方に大きな問題があることを見逃してはならない。

そもそも日本では保育園と幼稚園のミッションの定義があいまいだ。保育という言葉には、当然、教育もふくまれており、保育園でも幼稚園でも実際には同じような幼児教育が行われているべきだ。

ところが前者は児童福祉法、後者は学校教育法で規制され、管轄も厚生労働省、文部科学省と分かれている。そのため、同じ子どもでありながら、親が就労しているか否かで異なる施設にゆかなければならない、という不合理なことが生じている。また大局的に見れば、法律と所轄官庁が違うことで、幼児教育・保育に関して、社会全体として膨大な非効率な行政運営をもたらしている。

幼保を一元化すべきという議論は大正期から続いている。しかし、各省の既得権益の問題、教育・福祉予算の削減、それぞれの業界の思惑も絡まり、制度的な一元化は難しい状況にある。

大学で保育者養成に関わっている私はスウェーデンの男女平等政策とそれを支える保育制度に大きな関心を持っている。

Ⅱ、スウェーデンの就学前教育

スウェーデンの就学前教育は1996年に管轄が社会庁から教育庁に、1998年に社会サービス法から学校教育法に一本化され、就学前教育が生涯学習の第一歩として明確に位置づけられることになった。
スウェーデンの就学前教育は次のようである。

保育園

1～5歳児が対象。保育園を利用する子どもの割合は1才から5才までの子どもの66%(1999)。15～20人の異年齢グループに分かれて生活し、3名の保育者が担当している。通常朝7時から夕方6時くらいまで開かれている。通称DAG　HEM(昼間の家)と言われ、1グループに数種類の部屋(クロゼットの部屋、大きめな遊戯室—円になって音楽に合わせて体を動かしたり、天井からロープを垂らしたり、肋木などでサーカスごっこを楽しんだりしている、システムキッチン付きの食堂、ままごとの部屋、読書の部屋、アトリエ等)がある。

2000年以降、保育園不足という長いトンネルを抜け、希望すれば待たなくても入れる量的拡充ができた。これからは保育の質をより高めていくと担当者は語っている。
2003年から4・5歳児に対しては1日3時間の保育が無料で提供されるようになった。この施策は保護者の経済的負担の軽減とすべての子どもに社会的教育を受ける機会を保障するものである。

家庭保育室

70、80年代の保育園の不足を補うため家庭保育室には保育園と同数くらいの子どもが保育されていた。保育ママにはコミューンから、公務員並みの給料が支払われ、研修も課せられる。
2000年以降、保育園の量的拡充ができたことにより、家庭保育室の数は激減している。複数の

家庭保育室が協力してカリキュラムをつくり、5歳児だけの活動など年齢別の活動を保証する新しい取り組みがなされている。

オープン保育園

この試みは、1970年代初期に団地やニュータウンが各地に広がり、若い母親が育児不安を訴えだしたのを契機に始まった。ただし、父母に限らず、祖父母でも親戚でもベビーシッターでも誰か保護者が付き添っていなければならない。登録する必要はなく、子どもの名前と年齢、保護者との関係だけを記入すればよい。インフォーマルな雰囲気の中で、父母や子どもの保護者が互いに交流しあい子どもたちにも仲間を作る機会が与えられる。いろいろな玩具があり、家庭ではできないダイナミックな遊びもできる。定期的に、ソーシャルワーカーや看護士が巡回してきて、親の育児や生活上の個別相談にも応じている。1972年から国の補助金によって開設が奨励されるようになり急速に拡大した。週1～5回、1日3時間から全日オープンと多様。子どもの数は多い日も少ない日もある。職員の一人は就学前学校教員の資格が必要である。育児休暇中の母親や父親と子どもが利用している。無料。

Ⅲ、保育園の経営主体の多様化―民間委託化と民営化

スウェーデンにおいては、福祉は全て公立が担うということだったが、1990年代に入って公立園の民間委託や新設園の民営化が進められているが、日本とは様相は異なる。そもそも、人件費の公私格差がない。それはなぜか、ということだが、公立運営の「官僚化」「硬直化」ということがいわれている。今まで、運営費は定員定額制だった。例えば、入園希望者がいるから、入園させてほしいと保育課がいっても「今は困難な子どもがいて、手一杯だ」と断られてしまう。経営主体を多様化して、ある意味競争を促す。そして、保育の質を高めるねらいがあったようだ。公私、関係なく子ども一人あたり単価で（例えば67,300Kr―年齢、保育時間によって異なる）自治体から支給され、総額―家賃等も含む―をどのように使うかは園長の裁量に任されている。給料も職員で話し合うといったように独自性が発揮しやすい。

多様な経営主体

職員協同組合

これは、公立として運営されていた園をそこの職員が協同組合を組織して居ぬきで経営を委託されたもの。私が見学した保育園は、スウェーデンでは規模が大きく80人定員、建物面積が1000㎡、外も大木がうっそうと茂り、豊かな自然のなかにある。

職員共同組合のプロフィールはボスを置かないで、職員が一人ひとり役割分担して、協同して運営していくというものらしく、他の職員協同組合立でもボスは誰と訊いたら「ボスはいない」という答えだった。レッジョ　アプローチ（北イタリアのレッジョ　エミリアで実践されている保育が、今、世界的に注目されている）を取り入れ、創造的な保育を意欲的に取り組んでいる。

両親協同組合

親が協同組合を組織し、自治体から補助金を支給される。このプロフィールは大家族制で18～20人の少人数である。子育てを誰かに外注するのではなく「仕事もしたいし子育てにもじっくり関わりたい」親達で、自分の2人の子どもを両親協同組合立で育てた高橋さんによると「ぜいたく保育園」と言われたとのこと。人数が少ない分、親の出番も多く、掃除は親が当番で、また保育者が休む場合は、親が代わりに出るなどしている。職員は4時までの勤務でそれ以後は親が担当するなど、親と職員の協同関係で成り立っている。生協アイデアセンターが開設にためにに無料でアイデアや定款の作成などアドバイスしている。

株式会社

①ピスリンゲンが最大手　現在、ストックホルムを中心に48園を経営している。私が最初に見学を頼んだピスリンゲン立の保育園はあっさり断られてしまった。

近くに別のピスリンゲンの保育園があり恐る恐る頼むとOKだった。園長のカーリンさんとはそれ以来のつきあいだ。彼女は2000年9月にオープンしたハムンスクーランの就学前部門の責任者として転勤。その学校は4歳児から基礎学校6年生までで、複式学級で運営されている。公立園の園長が自分で会社や職員協同組合を立ち上げたたりする場合もあるがどうしてピスリンゲンだったのか訊いたところ、まわりに一人でやっている人もいたが、運営に苦労していた、それよりも大きな組織でやった方が可能性が大きいと思ったと。ハムンは全学年でテーマ活動に取り組んだり、美術活動が盛んで意欲的であった。

公立

72年に開設したある公立保育園の男性保育者に民営化について訊いたところ「児童福祉は公営でやるべき。市が職員生協でとか民間運営にと言ってくるが、職員は反対している。ここは民間運営になることはないだろう。政治的問題である。ここの園長も4カ所兼ねている。1週間に1回しか来ない。ここの職員は団結して強い。園長は2年前からだが、自分は30年以上働いている」という答えだった。

Ⅳ、スウェーデンには0歳児保育がない―480日（労働日）の育児休暇

スウェーデンの保育園で0歳児はと聞くとやっていないという答え。高いコストがかかる0歳児保育よりも育児休暇を延長することにより、1歳以降の入園のほうが得策。父親にも2ヶ月の育児休暇を割り当てることによって（母親に移譲できない）男女の家事・育児の共有化をはかった。こうすることによって親に育児力をつける狙いがあったのではないか。日本では産休明け保育も含めた0歳児保育の拡充がいわれているが如何なものか。保育制度、保育方法などスウェーデンの合理性を大いに学ぶべきというのが実感である。

目次へ戻る　　このページのTOPへ戻る

JISS 社団法人スウェーデン社会研究所
Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies

JISS所報－No.329－2004.12.31

目次へ戻る

9月30日　第30回スウェーデン研究連続講座

スウェーデン産業シリーズ　No.15
ものづくりの基盤を支える金型用鋼、工具鋼メーカー
ウッデホルムの全容

ウッデホルム（株）
代表取締役
間部　泰範

本日紹介するウッデホルム社（ボーラ＝ウッデホルム社BUAG、およびその傘下のアソシェ＝テッド・スウェ＝デン・スチ＝ル社ASSAB）は1668スウェ＝デン中部のウッデホルムで誕生した特殊鋼メ＝カ＝である。以来330余年現在に至るまで各種金型、工具等に用いられる高級特殊鋼を世界中に供給してきた。この特殊鋼は専門化された用途に用いられる素材であるが、それを使って生み出される製品は、現在我々の社会生活にほとんど関係していると言って差支えないほどの影響力を有する材料である。そしてこの材料の分野では、ウッデホルム社は世界＝の供給シェアを維持し続けてきた。
本日は、そのウッデホルム社の活動、企業理念、企業戦略等について述べようと思うが、それに入る前にまず「特殊鋼」と「金型」のお話をしておきたい。

特殊鋼について

特殊鋼というのは、いわゆる鉄とか鉄鋼といわれる材料の中の＝種であるが、実は鉄（てつ、IRON）と鋼（こう、はがね、STEEL）は、性質が異なるものである。我々が普通鉄とよんでいるものは、鉄鉱石とコークス、石灰石を高炉に入れ、加熱して溶解させるとできる。これを銑鉄というが、銑鉄は炭素の含有量が多く、非常に硬いが、もろくて壊れやすい性質をもっている。銑鉄から炭素を取除いていくと柔らかくなってくるが、炭素の含有量が2％以下のものを鋼（こう、はがね）とよんでいる。鋼は銑鉄や鉄のスクラップを溶けた状態で転炉や電気炉に入れてつくる。鋼は他の金属と合金にしたり、熱処理をすると性質がいろいろと変わるので、使用目的によってそれに応じた処理をすると、建築の構造物や自動車のボディー、家電や工具など、いつも我々の日常使う様々な製品に適応した鋼をつくることができる。

鋼の種類を大別すると、普通鋼と特殊鋼の二つに別けられる。普通鋼は、建築、橋、船などに用いられるもので、鋼の生産量の85％がこの普通鋼である。
これに対して自動車のボディーや軸受け、バネ、ステンレス製品や刃物工具など我々の日用品の中に組込まれて使われているのが特殊鋼である。特殊鋼はその全種類を合わせても総生産量は鋼全体の15％である。その中で工具などに使用される「工具鋼」とよばれる特殊鋼についていえば、その生産量は小さく、世界的に見ても全鋼生産の0.1～0.2％程度である

金型について

金属やゴム、ガラス、プラスチックなどの材料で種々の製品をこしらえる場合、その材料を製品の形に成形したり、鋳造したり、切り取ったりする型（かた）を金型という。従って金型は、自動車のボディー、家電製品、パソコン、DVD,携帯電話、ペットボトルなど外から見える箱物のみならず、それ等の中に含まれている半導体などあらゆる部品を製造するのに不可欠なマザーツールなのである。自動車ひとつとっても、その製造には1000個以上の金型が使われている。
造られる部品の精度や品質、コストは金型によって大きく左右されるので、ものづくりにおいては金型に極めて高い技術が要求される。そのようなことから国の経済力、技術力を見るには、その国の金型の技術を見れば分かるといわれるほどである。
ちなみに日本は世界一の金型生産国であり、生産高は年約1兆7千億円、これは全世界の金型生産の40％を占める。

ウッデホルム社の活動

ウッデホルム社の主力製品は、先に「特殊鋼について」のところで説明した「工具鋼」とよばれる特殊鋼である。そしてその特殊鋼の用途は80％が金型向けである。（残り20％はドリル、ナイフ、ヤスリなどの工具向け）

金型用特殊鋼は鉄鋼産業の中ではニッチな市場であるが、この分野においてはウッデホルム社は業界のナンバーワンであり、世界で28%のシェアをもっている。

ウッデホルム社（ボーラーウッデホルム社BUAG）の概要（2003）は以下の通りである。

売上	18億ユーロ（2,500億円）
従業員	12,000人
商品	工具鋼、帯鋼、鍛造品、溶接材
本社	オーストリー　ウィーン
製造拠点	100ヶ国
直接販売会社	50社
取引先	1,000社

ウッデホルム社の経営理念と戦略

ウッデホルム社の商品が長年に亘って金型材で世界でトップシェアを保っていられる理由は、第一にその性能と品質によるものである。加工しやすく、ミクロン単位の微細金型にも対応でき、変形せず、大量の生産にも耐えられる等の特性が客先に受け入れられている。

しかしウッデホルムが企業の理念として最も力を入れているのは、客先における（金型も含めた）生産のコストダウンの技術である。

金型の費用は、一般に金型設計費（CAD、CAMなど）、材料費、金型制作費などをいうが、これ等のコストはいわば氷山（アイスバーン）の氷で水面上に出ている部分のようなものである。

実際には金型は、客先において、製品全体の品質、製造不良、過剰在庫、市場への投入遅れによる機会損失など目に見えない水面下の90%以上の要素がコストに大きな影響を与えている。我々はこれをアイスバーンコンセプトとよんでいるが、この水面下のコストダウンを含めた金型材のノウハウを材料と共に客先に提供し、客先の業績に寄与することを会社の理念としている。

ウッデホルムグループの経営スローガンは
Wherever tools are made
Wherever tools are used
（金型がつくられ使用されているところへはどこへでもいく）
そして
Quality is No.1（品質第一）
From Customer Satisfaction to Customer Delight（顧客満足から顧客感動へ）
である。
このスローガンのもとウッデホルムグループの全会社は一丸となって、使用者が本当に求めている究極の金型材を顧客に提供すべく日夜努力している。

（講演抄録文責　JISS所報編集部）

目次へ戻る　　このページのTOPへ戻る

JISS 社団法人スウェーデン社会研究所
Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies

JISS所報－No.329－2004.12.31

目次へ戻る

10月25日　第31回スウェーデン研究連続講座

言語からみた北欧文化とスウェーデン文化の特徴

東海大学
スウェーデン語非常勤講師
速水　望

本日は言語、特にスウェーデン語を中心に、言葉の発達と文化の関わり合いについてお話ししようと思うが、話の組立てとしては、まずスウェーデン語とはどういう言葉かというところから始め、次いでどうやって今の言語になったのか、その特徴、方言、そして今後どのような方向に向っていくのかといったことなどについて、文化面にも触れながらお話ししていこうと思っている。

スウェーデン語とはどういう言語か

スウェーデン語は話し言葉を耳で聴くと、音楽を聴いているような、歌っているような印象を持つ人が多い。なぜそのように聴こえるかというと、母音が9つあり、その音を特徴づけるため長母音と短母音があって、さらに文の中では高低のアクセントと強弱アクセントがあることに原因があるであろう。文法的には強勢名詞と中勢名詞があって、性と格によって語尾のパターンが5つあり複雑だが、それを除けば英語によく似ているともいえる。

スウェーデン語のルーツ

スウェーデン語の源は、BC6,000－7,000頃黒海の附近で使われていたインドヨーロッパ語である。その後民族が東西南北に移動すると共に言葉が分化し、インド語、イラン語、ケルト語、スラブ語、ラテン語、ゲルマン語等に分かれていった。スウェーデン語のルーツをたどると、北に移動したインドヨーロッパ語族がさらに枝分れし、それに伴って言葉も古代ゲルマン語⇒北ゲルマン語⇒古北欧語⇒東北欧語という経緯を経た後、その中の種類のひとつがスウェーデン語となった。

東北欧語の仲間

東北欧語にはどのような言葉があるかというと、アイスランド語、ノルウェー語、フェロー語、古スウェーデン語、古デンマーク語などがある。これ等の言葉はもとは仲間であったが、この内の古スウェーデン語が発展して現在のスウェーデン語になった。このような経過から、スカンジナビア諸国の中ではスウェーデン人、ノルウェー人、デンマーク人は、それぞれが母国語で話しても、お互いに意志を通じ合うことができる。これ等の言葉を総称して一応スカンジナビア語と呼ぶとするならば、スウェーデン語の発音が最もスカンジナビア語に近いといわれている。

北欧における言葉のグループ

北欧で使われている言葉には、大きく分けて三つのグループがある。ひとつは今述べたスカンジナビア語である。二つ目のグループはサーミ語で、サーミ語はウラル語系に属し、フィンランド語と親戚関係にある。三つ目のグループはグリーンランドのエキスモー語である。

スウェーデン語言語史

ここで話をスウェーデン語に戻し、その歴史をふりかえってみよう。スウェーデン語の歴史は次のような時代に分けられる。

古北欧語時代	～800
ルーンスウェーデン語時代	800～1225
古スウェーデン語時代前期	1225～1375
古スウェーデン語時代後期	1375～1,526
近代スウェーデン語時代前期	1526～1732
近代スウェーデン語時代後期	1732～1879
現代スウェーデン語時代	1879～

以下、それぞれの時代の言葉の特徴や、なにが原因で時代が変ったのか等について簡単に述べる。

古北欧語時代　～800
　この時代の言葉については、あまりはっきりしたものは残っていない。しかし、ウプサラなどで発見されるルーン文字、タキトスの書物にあるスウォーン人（今のスウェーデン人）に関する記述、ウラル語族のフィンランド語の歴史などから古北欧語の存在を知ることができる。

ルーンスウェーデン語時代　800～1225
　この時代は、バイキングが活躍した時代と重なる。文字はルーン文字が使われていた。宗教はアーサ神が信仰されていたが、キリスト教が徐々に入りはじめる。

古代スウェーデン語時代前期　1225～1375
　スウェーデンが、アーサ神信仰からキリスト教に改宗させられる時代である。それと共にアルファベットが入ってきて、ルーン文字は衰退していった。文法的にはこの頃の言葉は人称や格変化などが非常に複雑であった。

古代スウェーデン語時代後期　1375～1526
　後期に入るとキリスト教普及に伴ないラテン語やギリシャ語で書かれた宗教にまつわる言葉が広がってゆく。又、鉄鉱石開発のためスウェーデンに来たドイツ人技師から、ドイツ語による教会の言葉や鉄鉱の技術用語がもたらされるなど、新しい文化が入ってきた。そして特にこの時代の大きなできごととしては、本の印刷技術が入ってきたことがあげられる。1483にはラテン語による童話集が発刊され、1494にはフランス語の翻訳本が出ている。この本ではそれまでには見られなかったウムラウト付の母音が見られる。

近代スウェーデン語時代前期　1526～1732
　1526時の王グスタフ・バーサ王が新約聖書のスウェーデン語版を発刊し、この時から近代スウェーデン語時代に入る。グスタフ・バーサ王は自ら推し進める宗教改革を成功させるには民衆にプロテスタントを広めるのが最も重要と考え、聖書を印刷発刊したのである。王は外国からの文化導入にも力を入れ、それと共にドイツ語やフランス語が大量に入ってきた。新約聖書は次々に改訂版が出され、その度に近代スウェーデン語は整理されていった。この時代になると文法的には、格変化などはずっと簡単なものになった。

近代スウェーデン語時代後期　1732～1879
　1732スヴェンスカールヴェス機関誌が発行され、この時より時代は後期に入る。この機関誌はオーロフボーダリーンという人によって始められたものであるが、彼はスウェーデン語を護ろうと言語保護活動に大変力を入れた人である。
　そして1786にはスウェーデンアカデミーが設立され、国としてスウェーデン語の辞書の編纂にあたることになる。この時代グスタフⅢ王（1771－1792）の統治した時代であるが、この王も文化に力を入れ、言語の中にも多くのフランス語やイギリス語の影響が見られる。

現代スウェーデン語時代　1879～
　19世紀の終りにアウグスト・ストリンドベリイが「赤い部屋」という小説を書いた。これを契機に現代スウェーデン語時代に入る。ストリンドベリイの「赤い部屋」で何が新しくなったかといえば、それは話すような文体で書かれていることである。そのスタイルが現在のスウェーデン語となった。
　現在のスウェーデン語の大きな特徴は、社会階級による言葉の差がなくなったことである。これがスウェーデン民主主義の発展に大きく寄与した。
　そして国民学校での全国民への国語教育、新聞や本の普及による読む機会の増大、産業革命で都市への人の集中、マスメディアの発達などにより、現代のスウェーデン語が確立していったのである。

これからのスウェーデン語
　スウェーデンには以前より、スウェーデン語だけでなく、フィンランド語やサーミ語を話す少数民族がいる。そこへ1900中ごろヨーロッパ各地から難民が、1950代には西ドイツ、オランダ、オーストリー、イタリアから労働者が、1960代には、ユーゴ、ギリシャ、トルコからやはり労働者が、そして1970代からは、チェコ、ベトナム、ウガンダから戦争難民が続々と移民してきて、今スウェーデンの中でそれぞれの国の言葉で話す文化圏を作りつつある。従ってスウェーデンの中でスウェーデン語以外に非常に多くの言葉が語られるようになり、一部ではスウェーデン語にもその影響が出ている。
　一方では国のEUへの参加、政治、経済のグローバリゼーション等の影響で言葉の共通化も進められているので、スウェーデン語も多様化と統一化の二つの流れと、その融合の方向へ向うものと思われる。

（講演抄録文責　JISS所報編集部）

JISS 社団法人スウェーデン社会研究所
Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies

JISS所報－No.327－2004.6.30

目次へ戻る

11月30日　第32回スウェーデン研究連続講座

スウェーデン産業シリーズ　No.16
ボルボと価値ある生活

ボルボ・カーズジャパン
代表
ケネス・ストローム

ボルボ・カー・コーポレーションはフォード・モーター・カンパニーの傘下にある自動車の会社で、本社はスウェーデンにあり、「ボルボ」の名で知られる乗用車を製造・販売している。私（ケネス・ストローム）は2年前に来日し、以来ボルボ・カーズ・ジャパンの代表を務めているが、本講座では、ボルボ・カー・コーポレーションの経営理念、技術、市場、そして日本での販売活動等について紹介する。

ボルボというブランド

ボルボは自動車のブランド名である。ではブランドとは一体何であろうか？自動車に限らずブランドといえば、人々は商品についての性能やデザイン、価格などの「理性的なもの」と、それらを超えた「情緒的なもの」を思い起こす。そしてこの両方が組み合わされたイメージが人々のイメージに合ったとき、人々はその商品を購入するのである。ということは、ブランドとは商品そのものの価値を表すだけでなく、その商品を生み出し、販売している会社の信用・信頼という精神的価値も併せ持っていることになる。

ではボルボにとって自らのブランドの持つ意味は何であろうか？ボルボはそれを「約束」であると考えている。この「ブランドは約束」という考え方は、1927ボルボを設立したグスタフ・ラーソンとアッサー・ガブリエルソンによって打ち立てられた。以後現在に至るまで、「約束」はボルボを表すコアバリューとして、ボルボブランドの中で生き続けている。

ボルボの約束

では、ボルボがブランドの中で約束しているものは何か？そのコアとなっている約束は（1）Safety 約束、（2）Quality　品質、（3）Environment 環境対策　の三つである。

1　Safety　安全

「安全」こそは、ボルボが創業以来ブランドの中で約束している最も重要なコアバリューである。

車における安全にはパッシブセーフティとアクティブセーフティのふたつの対策がある。パッシブセーフティとは、不運にも自動車事故を起こしてしまったとき、乗員の安全をはかるよう対策をとることをいう。一方、アクティブセーフティとは、事故を起こさないよう対策をとることをいう。万一事故が起きたときでも車外の人・物を被害から護ることや盗難など悪人から車を護るよう対策をとることもアクティブセーフティである。

2 Quality　品質

安全と並んで重要な約束は「品質」である。車は故障しないことが品質の第一であるが、ボルボではそれを超えて、プレミアムカーで顧客の満足度をNo.1にすることを品質と考えている。そのためにボルボは設計・製造・販売・サービスにわたる全工程においてISO手法やシックスシグマの手法を取り入れ、実施している。又カストマークリニックも常時行い、結果を品質マネジメントに取り入れて常に品質向上をはかっている。

3　Environment　環境対策

車というのは、本質的に環境に負荷をかける商品であり、それを避けることはできない。しかし、対策で環境負荷を軽くすることは可能である。具体的にいえば、環境に有害な物質を出来る限り車外に出さないようにしたり、廃車時にリサイクルをするなどの方法で環境負荷を軽減できる。ボルボでは車が環境に与える負荷を全て数値化し、その数値を下げる努力をするとともに、その成果を常に公表している。

以上、ボルボがコアバリューとしている三つの約束について説明したが、1985から、これに更に以下の四つの約束が追加された。（項目のみで説明省略）

4　High- class car experience　高級乗用車の乗り心地
5　Balanced lifestyle　バランスのとれたライフスタイル
6　Attractive design　魅力的なデザイン
7　Driving pleasure　運転の喜び

そして、これらの約束を凝縮したものが、本日の講演の表題となっている「Volvo value for life」である。すなわち最高の安全性とエキサイティングなカーライフを顧客に提供すること、これがボルボの約束であり、またミッションなのである。

ボルボ・カー・コーポレーション

本講座ではボルボとは何かの理解を頂くため、まずボルボの「約束」の話から入ったが、ここでボルボ・カー・コーポレーションについて簡単に説明しよう。

ボルボは1927ベアリングメーカーSFKにいたグスタフ・ラーソンとアッサール・ガブリエルソンによってスウェーデンのイェーテボリに設立された。この会社は設立二年目にして早くも成功し、以後順調に発展をしてボルボブランドの自動車は世界中に知られ、販売されるようになった。

近年、車のライフサイクルが加速度的に早くなるにつれ、車の開発費も膨大となってきたので、1999ボルボはトラック、バス、建設機器をABボルボで扱うこととし、乗用車部門はフォード・モーター・カンパニーの子会社となった。これがボルボ・カー・コーポレーションである。

現在ボルボ・カー・コーポレーションはジャガー、ランドローバー、アストン　マーチンとともにフォード　プレミアムカー部門である「PAG」(プレミア・オートモティブ・グループ)の一員となっている。

ボルボ・カー・コーポレーションの本社はスウェーデンのイェーテボリにある。そして部品工場はスウェーデンとベルギーに、組立工場はマレーシア、タイに、デザインセンターはスウェーデン、スペイン、アメリカ(カリフォルニア)にある。

2003には550万台のプレミアムカーが世界で売れたが、そのうちの41万5千台がボルボ車であった。ボルボ車の四分の一以上は米国で販売されている。米国に次ぐ主要なマーケットはスウェーデン、イギリス、ドイツで、日本は7番目に大きなマーケットである。

ボルボのプレミアムカーの紹介

(省略　詳細はカタログ、パンフレット参照)

ボルボのマーケティング、開発・サービス活動

ボルボは、先に述べたフォードの「PAG」に属しているが、車の販売は全く独立して行っている。しかしその他の部門ではPAGの中でジャガー、ランドローバー、アストンマーチンとともに共同で企業活動を行い、それにより効率の向上以上の効果をあげている。これは日本においても同じである。具体的にいうと、①共同でマーケティングを行うこと　②共同で技術開発を行うこと　③間接部門を共通化すること　④サービスを共通化すること　により、それぞれの社では単独でできない大きなシナジー効果をあげている。

日本の市場とボルボ・カーズ・ジャパンの活動

現在の日本における車の市場についていえば、車全てを入れれば日本には今600万台の車が走っている。そのうち乗用車だけならば450万台、そこから軽自動車を除くと350万台となる。その中で輸入車についていえば24万台であるが、そのうちボルボ車は10万台である。

日本のボルボの販売拠点は、1975まずジョイントベンチャーで出発した。1986にボルボ100%出資の販売会社を設立、本格的に日本での販売を開始した。現在ボルボ・カーズ・ジャパンのもと、全国に148の販売拠点をもち、年間に直営ディーラーでは3,000台、独立のディーラーで9,000台、、スバル系のディーラーで3,000台、計15,000台のボルボ乗用車を販売している。その他に160のサービス拠点を持ち、700人のメカニックが車のメンテナンスを行っている。

ボルボのビジョン

ボルボのビジョンは「世界で最も成功し最もお客様に求められるプレミアムカーブランドになること」である。ボルボでは、日本はもとより、全世界の従業員がこのビジョンのもとに一丸となって活動をおこなっている。

(講演抄録文責　JISS所報編集部)

目次へ戻る　　このページのTOPへ戻る

JISS 社団法人スウェーデン社会研究所
Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies

JISS所報－No.329－2004.12.31

目次へ戻る

スウェーデン人の見た日本、日本人の見たスウェーデン

スウェーデン人が日本で暮らすのは難しい？

武道研究家
ラスムス・ノルベリィ

日出る国日本を旅することは、信じられるかは別として今や若いスウェーデン人にとっては夢である。それは日本の武道、テレビゲーム、アニメ、マンガ、そして数々の興味をそそる電気製品が、スウェーデンの若者を魅了しているからである。

今もしストックホルムで日本人が道が分からなくなって戸惑ったとしても、すぐスウェーデンの若者が近寄ってきて、剣道教室やアニメで覚えた日本語を使ってみたくて声をかけてくるに相違ない。そして、これは友達から聞いて私でさえ非常にびっくりしたことなのだが、ストックホルム大学で日本について学びたいと思ったらトップクラスの成績を収めていなければ難しいし、実際希望する学生のほんの一部しかコースを取ることができなくなっているという。このような現象はつい最近までは見られなかったことだが、こういう変化が起こっているということは、まさしくスウェーデンの中で日本に興味をもつ若者が急激に増えたことを物語っている。

かくいう私も日本に魅せられたスウェーデンの若者のひとりである。そして武道を、またそれを通して日本を理解したくて日本へやってきた。ところが、日本へきてまだ半年もたたないうちに目を回してしまった。私は日本で今、武道、弓道、書道を習っているのであるが、学んでいるのはこれらの習い事だけではない。実は私が今一番学んでいるのは「実際に日本人の中で暮らすこと」である。そしてこれはもう闘いのようなものである。というのは、日本のライフスタイルは、あまりにも多くの点でスウェーデンのそれとは異なっているからだ。もし普通のスウェーデン人が、日本への心の準備もなくスウェーデン国内と同じようなつもりで日本社会の中で暮らしたとしても、1週間程度なら何事もなくもつかもしれない。しかしそれ以上長くなると、日がたつにつれ頭がおかしくなってしまうだろう。

私が日本にきて分かったことは、日本の社会の中で生活するためには、日本のやり方に敬意をはらい、それを深いレベルで理解しなければならないこと、そしてある部分では日本人になったつもりになる必要がある、ということである。

しかし、そうすることはスウェーデンの若者にとっては大変難しいことだ。なんとなれば、それは毎日じっと我慢して何事も受け入れるという忍耐を必要とし、どのように行動するかは、理屈よりただただ鍛錬によって習得するしかないからである。

そう、ここであらためて言い直すならば、今私が日本から学んでいる一番大事なことは、武道、弓道、書道からというより、普段日常で付き合っている日本の人達との交わりの中から学んでいるのである。そうしてそのうちの何人かは、今や自分の家族と同様の人達になっている。私は日本以外の国の人との交わりで、こんなにもいろいろなことを人から教えてもらったことは一度もなく、日本の中で学べる経験をもてたことを大変誇りに思っている。

私は、若いスウェーデン人が、私のように日本人の中で暮らしていろいろなことを学ぶのはとても意義のあることと思う。日本の人達は私の性格の欠点を認識させてくれ、そしてそれを変えるよう示唆してくれた。お蔭で私は忍耐強くなり、また謙虚にもなってきたと思っている。そしてそれにより、誠意とはなにか、人の心の痛みとはなにか、人のなすべきことはなにか、というようなことが分かるようになってきた。

しかし私にとってそれよりもっと重要なことは、私が「スウェーデン人とはなにか」ということについて、あらためて深いレベルで考えるようになったことである。

私はより多くの若いスウェーデン人が、本気で決意して（お金も工面して）日本へきて日本を経験したらよいと思う。それは日本人から「大和魂」も含めて多くのことを学んで欲しいからだ。そして、そのような若いスウェーデン人を通して、日本の人達もまた多くのことを学ぶことができると思うからである。

スウェーデン企業に10年勤めて

日本エリクソン（株）
セールス本部　部長
川田　明

17年間勤めた日本の某大手通信機メーカーから競合するスウェーデンの通信機メーカーの日本法人に転職してから10年が過ぎようとしています。親の仕事の関係で子供のころ米国で4年間生活したこともあり、英語には不自由しなかったので、好奇心も手伝い、いちど外国の企業で働いてみたいと思ったのが動機でした。
スウェーデンの会社を選んだのは、多くの方が感じられておられると思いますが、スウェーデン人は概して真面目で礼儀正しく、集団の意思を尊重し、勤勉であるというイメージがあり、当時「スウェーデン人は欧州の日本人、日本人はアジアのスウェーデン人」という題の論文が出たくらいなので、外国の会社であってもカルチャーショックは小さく、意思もよく通じて働きやすいだろうと考えたからです。

ところが、入社してスウェーデン人と一緒に仕事をしてみると、仕事の仕方の違い、考え方、ものの感じ方に大きな違いがあることが分かり、斬新な驚きとともに大変な戸惑いを覚えたものでした。しかも困ったことにその違いがどうして出るのか当時理解ができず、したがって人（特に日本人の顧客）にも説明できないのが最大の悩みでした。
しかし毎日同じ目的にために同じ会社で働くうち、どうもこの違和感というのは、性格やものの考え方などの本質的な違いから発生するものではなく、コミュニケーションの仕方に違いがあるところから来ていると考えるようになりました。

人と人とのコミュニケーションで最も重要な役割を果たしているのは言葉です。ところが本来お互いをより良く理解する上での手段であるはずの言葉が、その役割の違いを認識しないと、言葉のコミュニケーション自身が誤解を生むという皮肉な結果になりかねません。言葉の持つ役割の違いについて経験した事を少し述べたいと思います。

スウェーデン人は非常にロジカルであり、理由をはっきりと言葉で説明できないと、なかなか仕事がはかどりません。上司と部下の関係であっても同じです。論理の世界の中で、なぜこの仕事を今実行する必要があるのかを、かなり緻密に理論立てて説明出来ないと実行してもらえません。しかし、ひとたび納得してもらえると、日本人以上に責任感をもって仕事に取り組んでもらえます。
また別の事例をあげると、会議において、反対意見があるならここではっきり言いなさい、言わなければ同意したものとみなす、と言われる事がたびたびあります。言葉に表現されていない事柄は存在しない、もしくは考慮しないと言う立場です。

上述の両方の事例とも、スウェーデン人の社会では言葉が重みを持つことを示し、かつコミュニケーションの責任の大半は説明者側にあることを示唆しています。ところがこのことが、恐らく私を含めた多くの日本人にとって、先に述べた違和感（ときとして苦痛）として感じることに繋がっていたように思います。
日本人の日本語によるコミュニケーションでは、表現のなかで敬語、謙譲語が重視され、相手の立場を理解し、自分の意見は婉曲に表明するのを良しとします。そして極端に言えば、言葉を越えてお互いが理解しあうところに真の理解があると考えます。このようなトレーニングを日本人は幼少のときから受けていますから、日本人とスウェーデン人は、お互いを理解する以前に、言葉の会話の段階で、なにかマッチングがとれないという感覚が起こってしまうのでしょう。

スウェーデン人はドイツ人とともに、アメリカ人以上に論理的であり言葉を重視するといった研究もあり、反対に日本人は世界の中でも、言葉に頼らないコミュニケーションを重視する傾向の相当強い国民であると言う研究があります。ここのところが理解されないと、利害関係の対立のある場面において、例えば、日本人から見てスウェーデン人は、物判りが大変悪く、融通がきかず、感受性の無い国民に映り、スウェーデン人から見ると、日本人ははっきりものを言わない、優柔不断でえたいの知れない国民と言う事になりかねません。お互いの初印象が良いだけに、失望も大きなものとなります。

私はこの10年間、スウェーデンという似て非なるカルチャーとの間を行ったり来たりするうち、スウェーデンやスウェーデン人が分かるようになったとは言いませんが、スウェーデン式の仕事の仕方や考え方に、あまり苦痛を感じなくなってきたことは事実です。
一方目を会社以外に転じてみると、この間日本とスウェーデンの交流も随分盛んになりました。日本とスウェーデンがこれから更に良い関係を保ちながらますます交流を深めてゆくには、私は日本側として、スウェーデン式のコミュニケーションのやり方を理解することが大事だと思います。一方スウェーデン側に対しても、我々の日本式コミュニケーションのやり方をよく理解して貰うことがこれまた非常に重要なことだと思っています。

目次へ戻る　　このページのTOPへ戻る

JISS 社団法人スウェーデン社会研究所
Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies

JISS所報－No.329－2004.12.31

目次へ戻る

北欧留学記

アイ・ラヴ・スウェーデン

造形作家
北村　光子

どこまでも高いスカンジナビア・ブルーの空に澄み切った大気、そして帝政ロシア時代を想わせるクラシカルな北欧銀行の屋根が溢れんばかりの太陽光をうけて美しく映えているさまに、当時日本で流行っていたJRのコマーシャルになぞらえ、＜ここからの北極圏＞と思わず呟いてしまいました。これは1990年6月、サマーセッションで初めてスウェーデンを訪れたとき、学問の府ウプスラのメインストリートをタンクトップにジーパンという開放的ないで立ちで身も心も軽く散策していたときの私の姿です。これから始まろうとしている2年間の留学生活に胸躍らせて・・・・・。
その時私は50代はじめ、永年勤めてきた地方議員生活にピリオドを打ち、夫と子供＜既に成人に＞とも遠く離れ、たった一人で憧れのスウェーデンに来てしまったのです。

私が抱く＜スウェーデン感＞には、ウプサラでのこの一瞬の出来事が1枚の絵の様に焼きついています。
白状すれば私は語学オンチ、海外留学など夢にも考えたことの無い生き方をしてきました。そんな私が唐突にも留学するに至ったひとつのきっかけは、今から7年前何気なく立ち寄った街の書店で、若い女性達の海外留学記をかい間見た時、その中にスウェーデンの生涯教育の為のフォルケ・フォーグスコーラ＜国民高等学校＞に学んだ、若い女性の記事が在りました。勿論イタリアやフランス、イギリスの生活ぶりも魅力的でしたが、北欧4カ国に150年前から在ったと言うこれの教育制度に、北欧が福祉大国となったその精神的バックボーンのヒントがあるのでは？と何故か想い込んでしまい、その想いが　ー私も行ってみたいー　に膨らんでいきました。

しかし入学への必要条件は＜スウェーデン語が話せること＞だったのです。それからは一直線、先ずはスウェーデン大使館へ出かけて行き、＜フォルケ＞のカタログとスウェーデン語を教えてくれる所、留学についてのあれこれを入手し、早速、週2回丸の内にある夜間スウェーデン語講座に通い始めました。
それからの私は瑞典語ー日本語の辞書と首っ引きで、ドイツ語に近い、と言われている初対面のスウェーデン語との格闘が始まりましたが、何故か牧歌的な響きをもつこの言葉に、懐かしさと温かさを感じ始めていました。
講座通いも1年が過ぎた頃、私はストックホルムを中心に10校の＜フォルケ＞を選び、学校案内を依頼した処、真っ先に　ウェルカム！　の返事をくれたのがトーマス校長でした。日を追って後の9校からも　ウェルカム　を受け取りましたが、何の審査も無しに校長が＜OK＞を出せるその権限と外国人を受け入れる姿勢の大らかさに驚きと感動を覚え、益々スウェーデンへの興味がつのっていきました。私の立場は外国人留学生、成人であれば教育費は無料で1年間をメドに受け入れる、という制度に合致していたようでした。

＜お母さん、折角行くのなら海外で日本人だけとつるんでるプータローみたいにならないで、しっかり勉強してきてね！＞娘・息子・夫に肩を叩かれて、先ずはウプサラで開かれているサマーセッションで2ヶ月を過ごした後、スウェーデンで2番目に大きなブエッテルン湖畔の街ヨーのトーマス校長が迎えてくれる＜フォルケ＞での学生生活が実現することになりました。この学校は近くの町の大きな教会の持ち物で、教会音楽科が特色で、他に普通科、街の美術学校とブランチしている美術コースがあります。私は外国人留学生のための語学講座と美術コースを採り、学校の敷地内にあるこざっぱりした学生寮に入り、いよいよ憧れの学生生活が始まりました。
先ずは順調なスタートと言いたいところですが、現実はそんなに甘くありません。何としても会話が聞き取れない！発音が難しい！これではどんなに志が高くても動きがとれません。私はこんな時こそ、歳の功とばかり知恵を絞り、友人や先生、そのご家族や街の人々と親しくなろうと努力と工夫を重ねました。
その甲斐あってか1年目が過ぎる頃には親しい友人も出来、地域の小学校に招かれ日本の紹介をしたり、茶道の披露をしたり、その事が地域の新聞に載ったりと、予想を越えて街の人達に受け入れて貰うことが出来ました。しかしスウェーデン人は人付き合いがあまりオープンとはいえません。スウェーデンの人達は八方美人的な付き合い方は好まないので、私は何事も少し控えめに、告げ口や噂話には首を突っ込まず！をモットーに、コツコツと信頼関係を積み重ねていきました。そしてその成果の証とも云える事実は、2年間の留学を終えた後も1年の内、3、4ヶ月

間は同じ学校に短期留学を続け、現在に至っています。

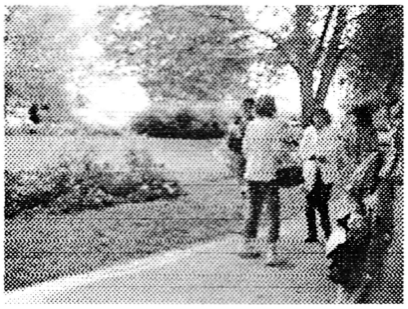
加えて2年目からは、私の和紙と墨を用いたクロッキー画が思いのほかスウェーデン人に気に入られて、何度か街のギャラリーで個展を開くこともできたのも、幸運なことでした。

私がヨーに来た初めの頃は、たった一人、言葉も出来ない日本人の光子は直ぐに逃げ帰ってしまうだろう、学校の人達もそう思っていたようでした。そんな私に3年前、トーマス校長が＜光子の様に日本人がスウェーデンに興味を持っているなら、夏に催しているサマースクールに、加えて日本人のためのスウェーデン語コースを計画してもよいよ＞ともちかけてくれたのです。

今年7月、念願かなって試行＜スウェーデン夏季　短期留学＞を無事、行う事ができました。内容はスウェーデン語コースと福祉施設の見学・生活体験コースの2つに分かれ、森に面した学生寮で3週間、食堂ではスウェーデンの家庭料理を満喫し、週末には先生のお宅や知人宅で催される食事会やホームパーティーで温かい歓迎をうけました。福祉施設の見学もストックホルムでは教会立の老人ホーム、ヨーの街でも3箇所の老人・障害施設を訪問しました。

今回は試行なので、メンバーは私の知人の中で特別にスウェーデンに関心を寄せている6人の女性達ですが、森の中でのブルーベリー摘みや乗馬、芝生を敷き詰めた広い庭の木陰でのティーパーティー、湖に浮かぶ島への船遊びなど、楽しいオプションの連続でしたが、皆が何よりも感激したのはスウェーデンの家庭生活や生の人々の感性に触れる事ができたことでした。東京での日常と全く違うゆったりとした時間の流れや、美しい湖・森の豊かさは彼女達の想像を遥かに越えた、素晴らしい体験となったようです。

この企画は2005年は7月18日から2週間の日程で、ベテランのスウェーデン語教師と福祉施設見学やスウェーデンの家庭生活を体験したり・・・と楽しいオプションを計画しています。今回は参加者を募っていますので、興味のある方は　mkonst@attglobal.net　迄ご連絡ください。



2004年　夏季短期留学のポートレート

目次へ戻る　　このページのTOPへ戻る

JISS 社団法人スウェーデン社会研究所
Bulletin of The Japan Institute of Scandinavian Studies

JISS所報－No.329－2004.12.31

目次へ戻る

JISS所報原稿募集

JISS所報原稿募集

JISS所報では、北欧・スウェーデンの歴史・政治・経済・社会制度などを研究しておられる方、公的機関や福祉・環境・教育などの社会活動機関、企業活動等での交流を通じて北欧・スウェーデンに興味をお持ちの方、あるいはJISSやJISS所報にご意見をお持ちの方々からのご投稿を広く募集しております。

応募方法は下記の通りですので、ふるってご投稿下さい。所報の編集方針に従って逐次掲載してゆきます。

1　応募資格

特にありません。ただし氏名・所属・連絡先は明記下さい。匿名の投稿は受付けません。

2　内容と字数

北欧・スウェーデンに関するものであれば内容は自由ですが、1，600字（程度）、3，200字（程度）のいずれかの文長でお願いします。
（まだ文になっておらず、テーマ、アイデアの段階であっても、投稿ご希望であればお気軽にJISS 所報編集部にご相談下さい）

3　掲載の可否と掲載時期

掲載の可否、掲載時期の判断はJISS内の所報編集部で行います。送られた原稿は返却しませんのでご了承下さい。

4　謝礼

ご投稿への謝礼は、無料ということでお願いいたします。

5　原稿の送付先

原稿は、「JISS事務局　所報編集部」宛て、Eメール、郵便、またはファックスにてお送り下さい。

目次へ戻る　　このページのTOPへ戻る